

大阪府  
手藝校  
敬則圖解

裁縫讀本

岡野金門編輯

卷之一

180  
8  
591

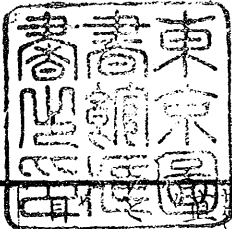
大日本教育會圖書部  
第三室  
三六四號  
四架四冊

函架一號

B 20

2439





尤注意すべし、筋目平  
 なるぎ、時寸法  
 差小此之、方、法  
 漏出、見、著、敷、も、此

第一章

大阪府手藝 校教則圖解 裁縫讀本卷之一

岡野金門編輯

五級生課程	
<p>襟袋</p>	<p>雑巾</p>
<p>腰巻</p>	<p>前巻</p>

岡野金門編輯

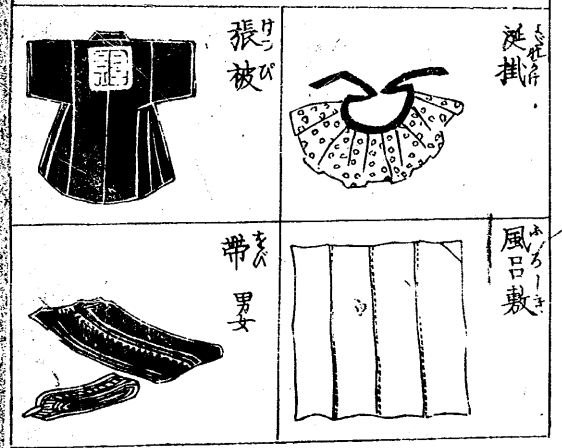
大阪府手藝 校教則圖解 裁縫讀本 卷之一

版権免許  
明治十五年  
十月出版

尚中堂裁版

なり薄地の織物又と舊き物も小な被さる筈と  
 用の幾回も篋目と付るがら多く筋目と駁

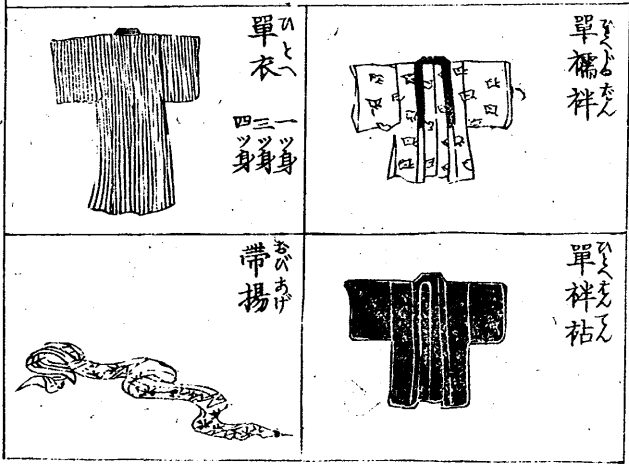
五級生課程



傷すはもはなり  
 火の斗と用ゐんとす  
 る時ハ、熨器乃底へ藁  
 灰と敷き炭火と入き  
 熨蒲團と拂ひ織裡を  
 展べ縦横杖正直に  
 熨すべし火氣乃適度  
 ハ白紙の上にて試む

べし火勢熾なる時と焦燥すべし決て熨は  
 上に白灰と吹散す  
 をからば又彈熨乃炭  
 と用ゆべららず  
 鉛銚と熨んじする時  
 ハ、熨炭を除くべし自  
 ら煙氣が傳へ白地等  
 へハ班汚と生ずる  
 とり白紙の上にて  
 試み熨すべし鉛銚に

五級生課程



熱灰の粘きたるを用ゐ、或は平坦ならざる上に  
て熨すときハ、汚き、或ハ光を生ずるもはなり

五級生課程



機織 無地木綿 條綿  
メリス 腕貫  
拾袋

第二章

裁法概則

裁断乃寸法、人の長  
短、肥瘦に應じ、衣服の  
寸分を定め、而して縫  
込の寸分を増加し、幅  
及び長乃過不足を尺  
度、棒釣、柳車、裁等、適

宜の法に随ふべし、  
尺度又を定木と押ゆる指え、強く押ゆべし、定木  
動揺する時は、裁口、  
直なら、次必ず寸法乃  
差を生ず、  
織地に縦横、皺、  
を織耳乃縮張するも  
ハ、丁寧に皺、  
地の真中へ尺度を置  
き、寸尺を度り、假綴と

五級生課程



縫續 金砂子 相良  
解物 衣服、  
縫、  
解物、  
衣服、  
縫、  
解物、  
衣服、

な一裁断ベト

織縁乃張りたるは、兩縁二三寸の間ど、深さ二三

五級生課程



洗濯 湯熨  
糊付 張物

分斜に裁べト裁口の  
浅深長短は張乃強弱  
小應に織地は平直な  
るを要す  
以裂疵或は縮崩一形  
亂色又ハ班汚の粘し  
色乃變トたる織地等  
ハ裁口が縫込べト


すな  
織地の木末に多く疎密  
ありたり密な所を破損し  
やすき方へま口すべ  
ト

織深縫等乃模様は多  
く粗磨すはもれ申へ  
先後と見糺一裁合す  
べト

第三章

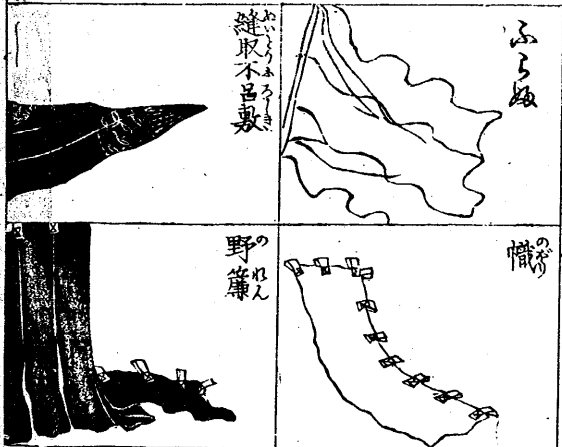
縫鍼概則

四級生課程

<p>巾着 襦袢 草拵形</p> 	<p>脚襪 大津</p> 
<p>頭巾 三層三</p> 	<p>襪股襪</p> 

縫鐵乃時糸切れ或不足續人さすゆとたハ  
縫節刮殘糸杯のなきよう糸あきし燃續にすべ

四級生課程



縫方に疎密乃區別あり  
縫方に疎密乃區別あり  
以総と破綻一やすき  
所ハ密鍼小縫ふべし  
折方を開寄一やまら  
所ハ縫目の際より折

る要す  
縫糸は縫所の長短方圓曲直等に應豫め寸尺  
と度以端留一二寸餘  
一切るを若し短く  
縫小時二三度用ゆ  
べき長糸と鐵に貫く  
を小最と長き小過ゆ  
ときは燃の戻る恐ら  
久燃乃強きを縫き節  
た糸を引小意外に

四級生課程



手遅き小なるも引ゆへ少く櫛を戻き用ゆべし  
 凡切糸はかきに、縫目の開ける必す縫糸引残

四級生課程



糸のりりと知るをし、又縫目は波どつは糸こ  
 き乃不足すゆあり  
 凡縫ふは或前豫や鍼  
 の負敷を億記し縫終  
 りたる時必ず検査す  
 べし事故ありて起居  
 する時と散亂すべか

うす

第四章

警戒

薄地或は古衣等と漫  
 に鍼六きすなから次  
 ○裁又鉄の利鈍強弱  
 と試みず断裁すべし  
 りず ○織物の上へ裁  
 又鉄の類と載置べからず  
 と鐵に貫き糸の切端と捨るべからず ○白地乃

四級生課程



本線袴袴の本線單衣  
 同裕○同綿入○帷子  
 近江酒の太良酒 一本身  
 本身迄

もけへ色糸にて躰を掛るべからず ○待鉞留鉞  
 と等閑に刺置へからず ○衣の破綻は修繕せだ  
 捨置べからず ○汗手  
 膏手等と拭かず衣を  
 取扱べからず ○入用  
 より多分の糊を製し  
 腐敗せしむべからず  
 ○班汚の粘着したる  
 と捨置べからず ○有  
 紋の織物を裁断する

四級生課程



時所々にて小切を此すべからず ○傷破り織地に  
 な付べき小切を捨べりからず ○裁断したる織地  
 と亂雑に重ね縮皺を  
 生ずべからず ○畳上  
 げ吹水し壓と措く時  
 白地染地は課積すべ  
 からず ○織地縫野に  
 應じ鉞乃大小長短を  
 擇はず漫りに用ひ縫  
 目とあらすべからず

四級生課程



目とあらすべからず



袖 二尺六寸	袖 二尺
衿 五尺二寸	衿 一尺八寸
衿 二尺	衿 二尺
衿 四尺七寸	衿 四尺

巾九寸長ケ一丈二尺ヲ  
以テ大一ツ身尋常裁法

袖 二尺	袖 二尺
衿 一尺八寸	衿 一尺八寸
衿 二尺	衿 二尺
衿 四尺	衿 四尺

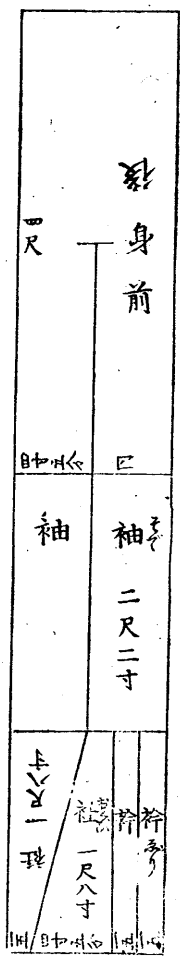
巾九寸長ケ八尺と必  
工尋常一ツ身裁法

入一正志からざゆと云ふ  
露鍼の露出するを云ふ

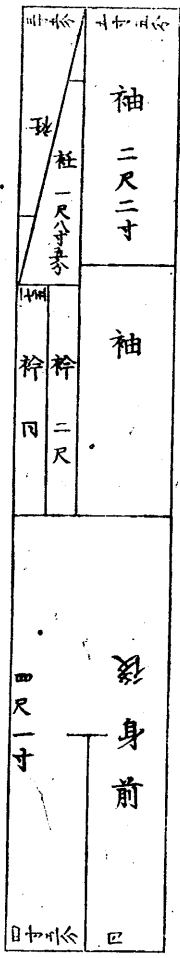


- 過鍼 縫目大小不同
- 扁鍼 縫目大小不同
- 脱鍼 鍼の裡へ貫か
- 流鍼 鍼の流きて縫
- 目開けるを云ふ
- 針鍼 縫目左右へ出

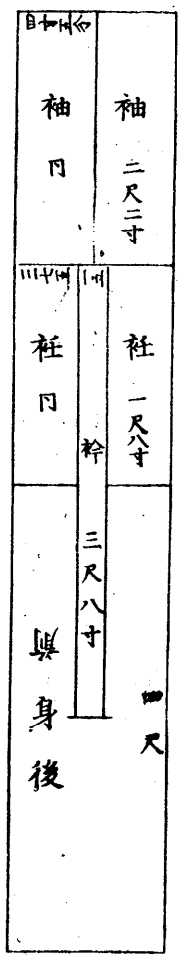
巾九寸長ケ八尺ヲ以  
テ一ツ身廣社裁法



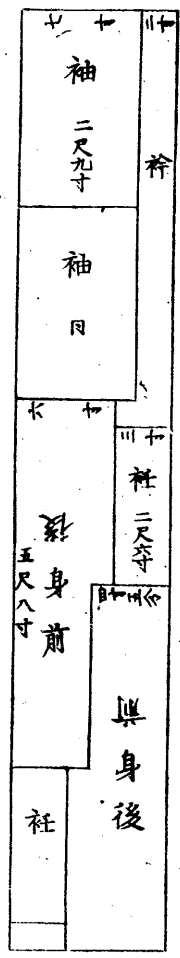
巾九寸長ケ八尺五寸  
寸ヲ以テ一ツ身柳裁



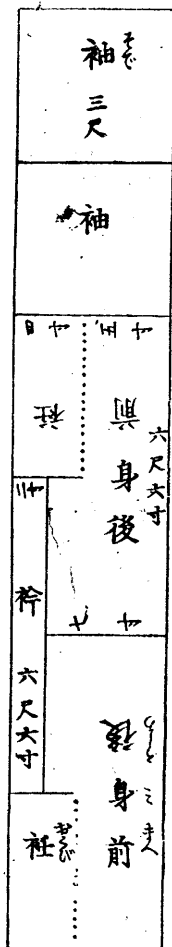
巾九寸長ケ八尺ヲ  
以テ一ツ身裁法



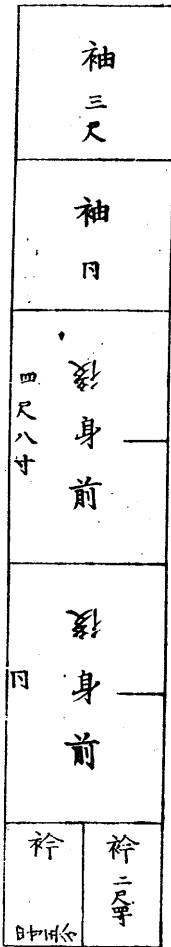
巾九寸長ケ一丈四尺  
五寸ヲ以テ三ツ身尋常裁法



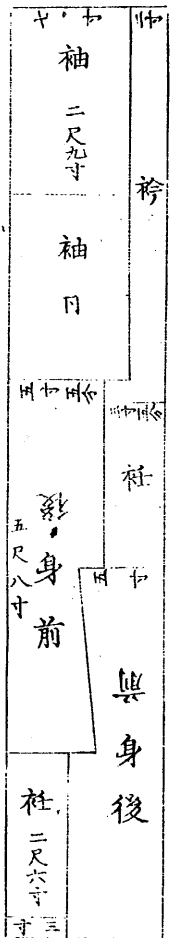
巾九寸長ケ一丈九尺二寸  
ヲ以テ四ツ身摘社裁法



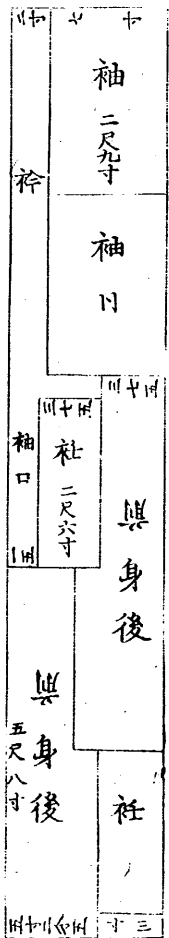
巾九寸長ケ一丈八  
尺ヲ以テ靴裾裁法



兩面モノ巾九寸長ケ一丈四尺  
五寸ヲ以テ三ツ身廣前裁法

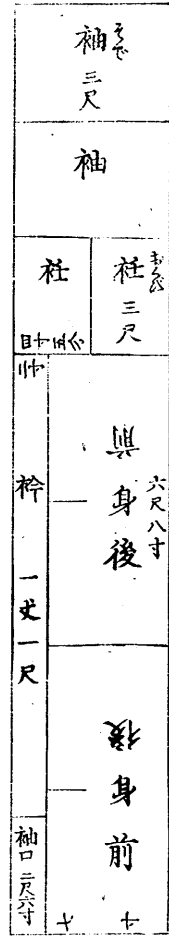


片面モノ巾九寸長ケ一丈四  
尺五寸ヲ以テ三ツ身裁法

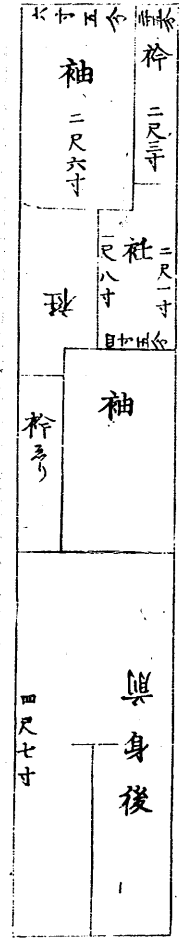




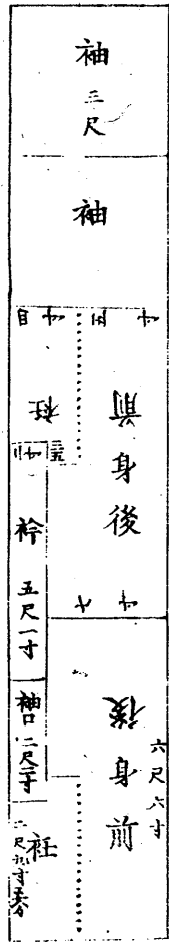
巾九寸長ケ二丈二尺六寸ヲ以テ四ツ身車裁法



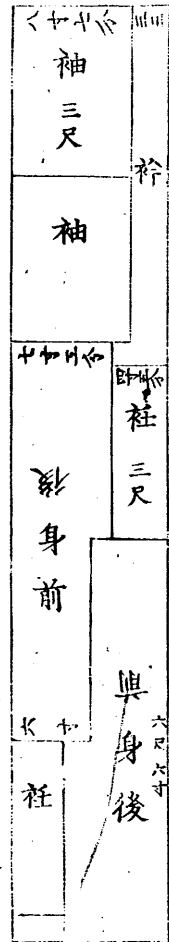
兩面モノ巾九寸長ケ一丈一尺七寸ヲ以テ大一ツ身裁法



巾九寸長ケ一丈九尺三寸ヲ以テ四ツ身摘衤裁法



兩面モノ縮緬類巾一尺二寸長ケ一丈五尺九寸ヲ以テ尋常四ツ身裁法



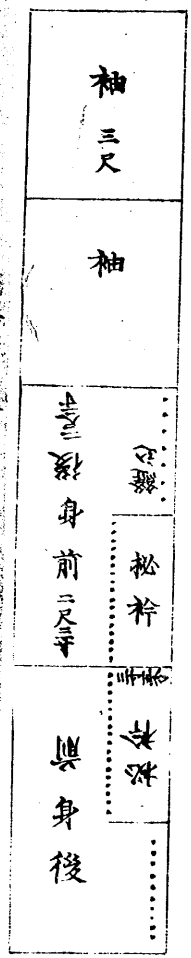


卷之

片面モノ縮緬類巾一尺二寸長ケ一丈五尺九寸ヲ以テ四ツ身裁法

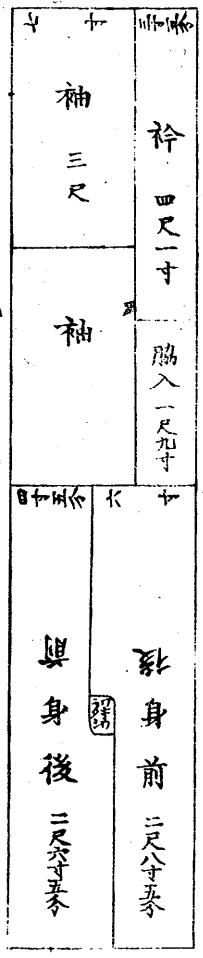


巾九寸長ケ一丈五尺ヲ以テ半衿裁法

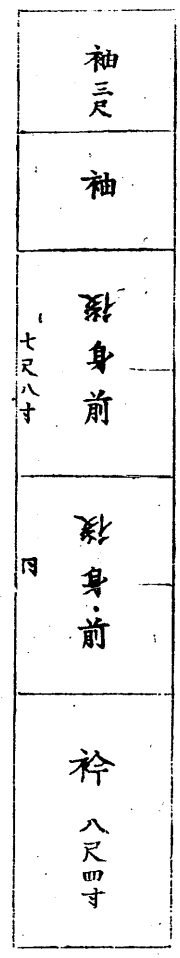


俱半衿下三寸五分巾長寸織切ヲタス

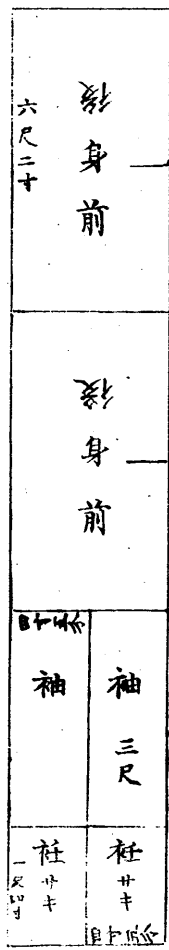
兩面モノ縮緬類巾一尺五寸長ケ一丈一尺五寸ヲ以テ三ツ身折返シ羽織裁法



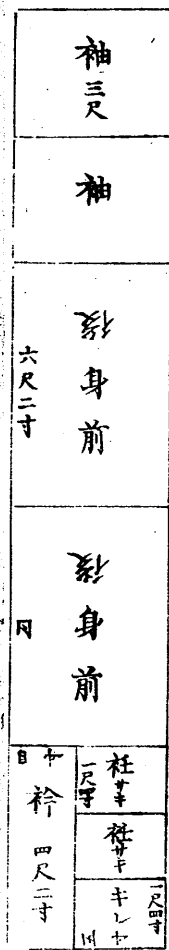
巾九寸長ケ三丈ヲ以テ女合羽裁法



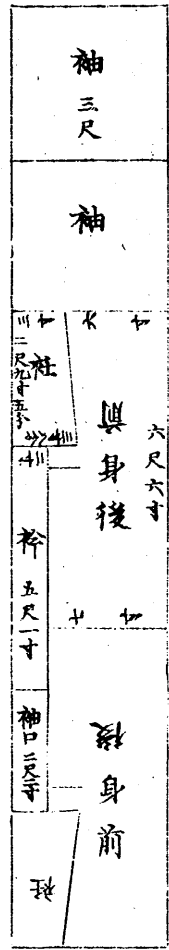
巾九寸長ク二丈六尺八寸ヲ  
以テ胴拔八掛付胴表裁法



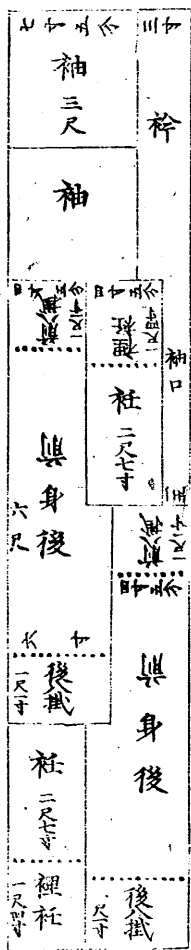
巾九寸長ク二丈二尺六寸ヲ  
以テ胴拔八掛付胴裡裁法



巾九寸長ク一丈九尺二寸ヲ  
以テ四ツ身逆社廣前裁法

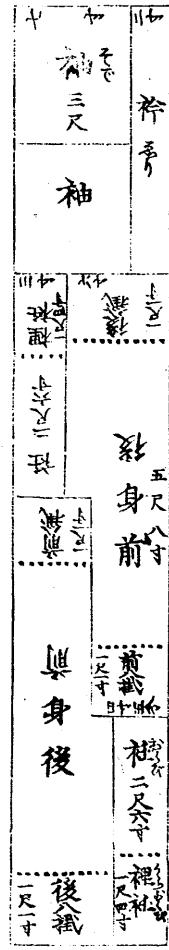


片面モノ縮緬類巾一尺五寸長ク一丈  
八尺三寸ヲ以テ三ツ身八掛付裁法

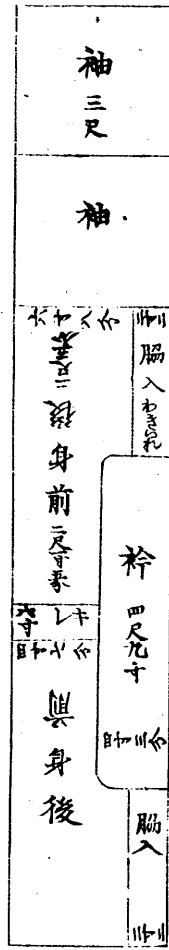




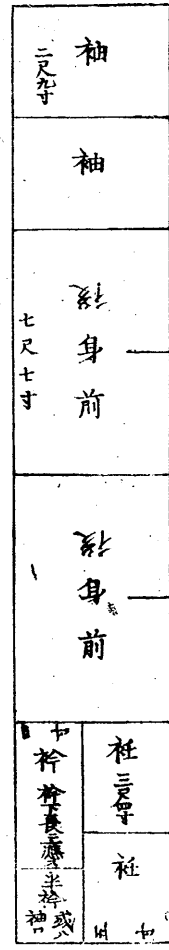
両面モノ巾九寸長一丈八尺ヲ以テ三ツ身八掛付裁法



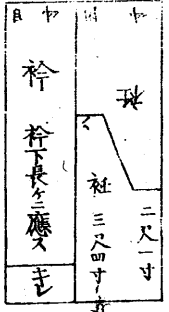
巾九寸長一丈五尺ヲ以テ四ツ身羽織裁法



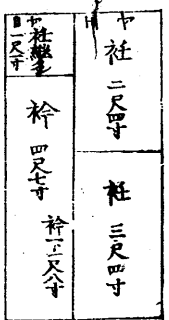
巾九寸長一丈八尺ヲ以テ本身棒裁法



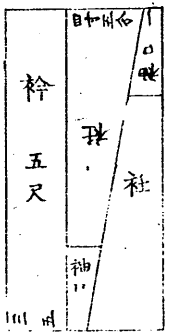
鈎裁

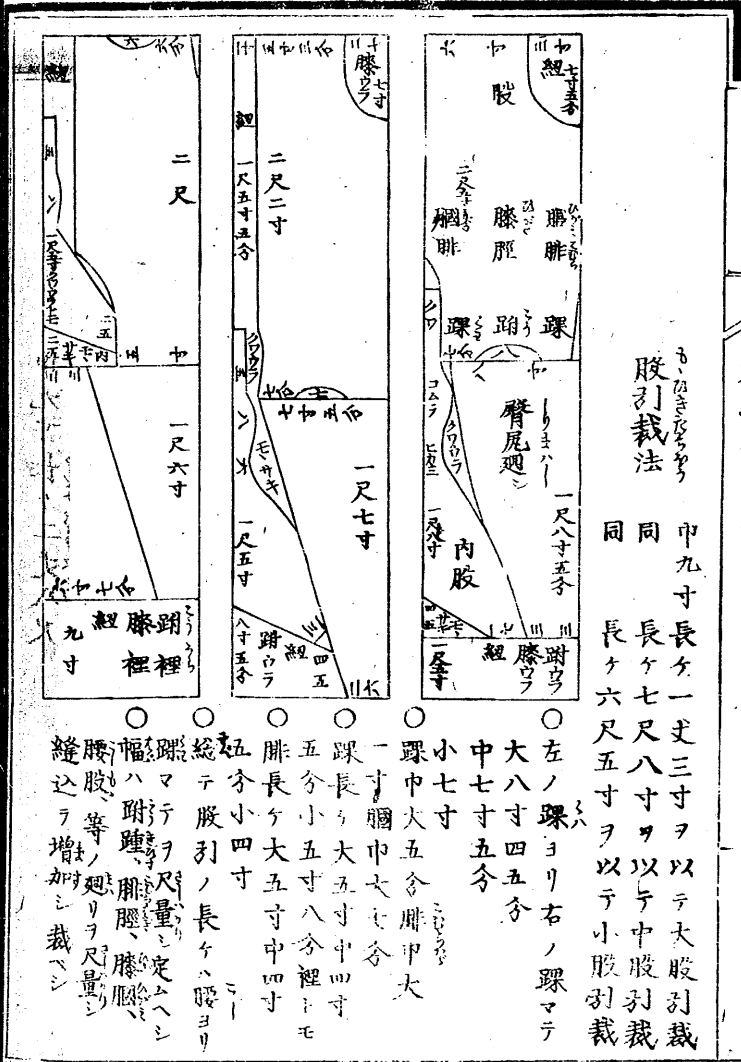
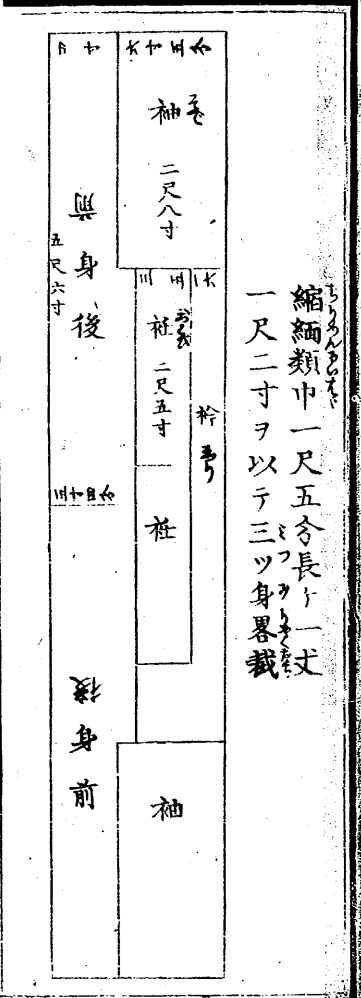
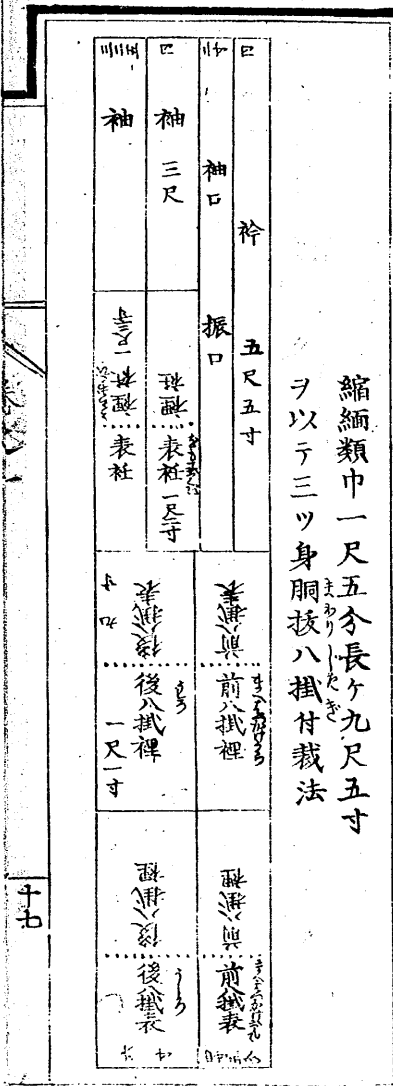


継棒裁



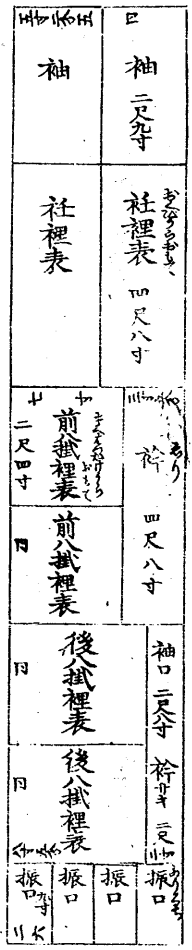
折裁



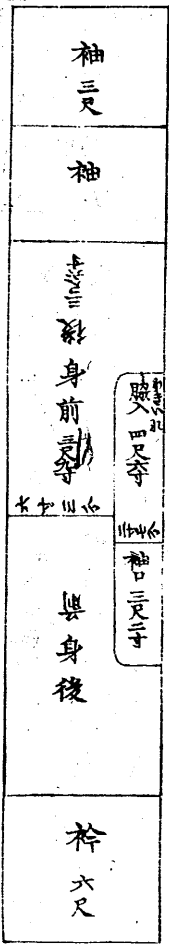


着之

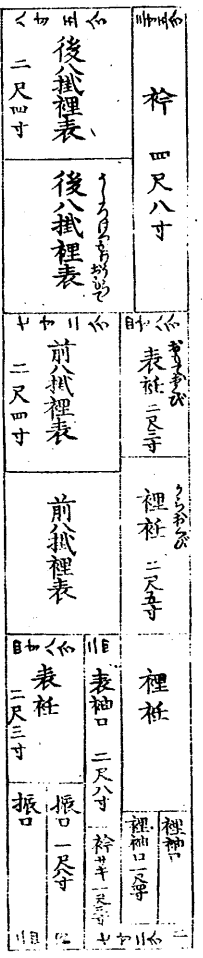
縮類巾一尺五分長一丈八尺  
二寸ヲ以テ本身胸披ハ掛付裁法



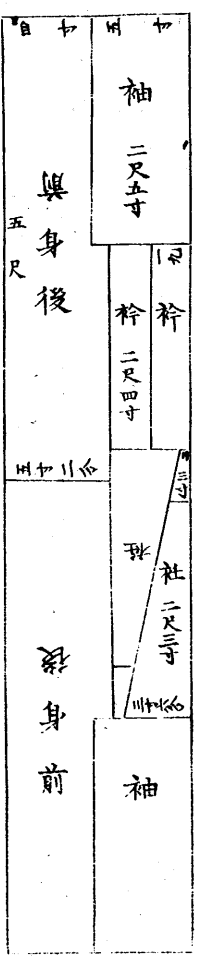
巾九寸長一丈七尺ヲ  
以テ折返シ羽織裁法



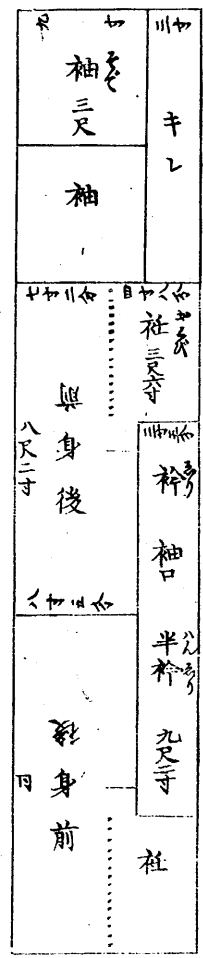
縮類巾一尺二寸長一丈三  
尺七寸ヲ以テ廻リ下着裁法



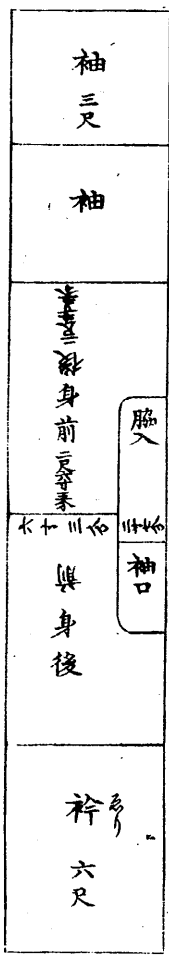
巾九寸長一丈ヲ以  
テ一少身脊縫裁法



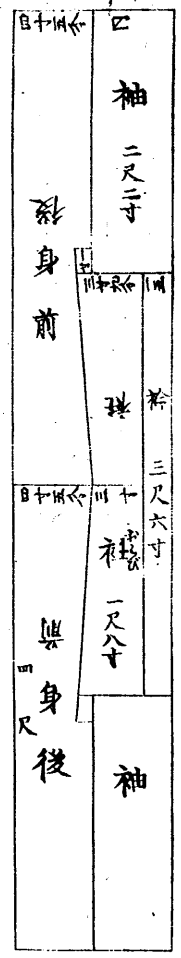
縮緬類巾一尺二寸長々二丈  
二尺四寸ヲ以テ本身裁法



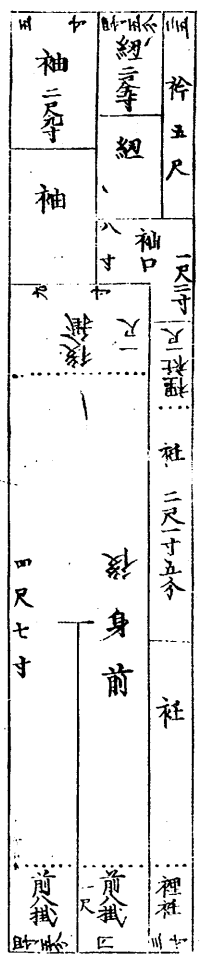
巾九寸長々二丈二尺  
四寸ヲ以テ羽織裁法



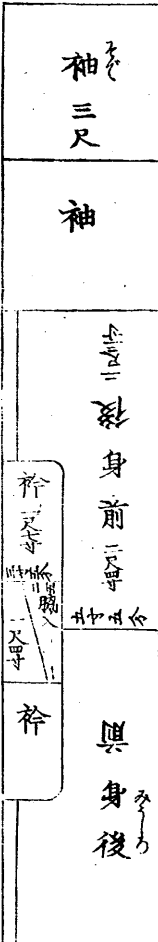
巾九寸長々八尺ヲ以  
テ一ツ身背縫裁法



縮緬類巾一尺二寸長々一丈二尺五  
寸ヲ以テ一ツ身共紐八拭付裁法

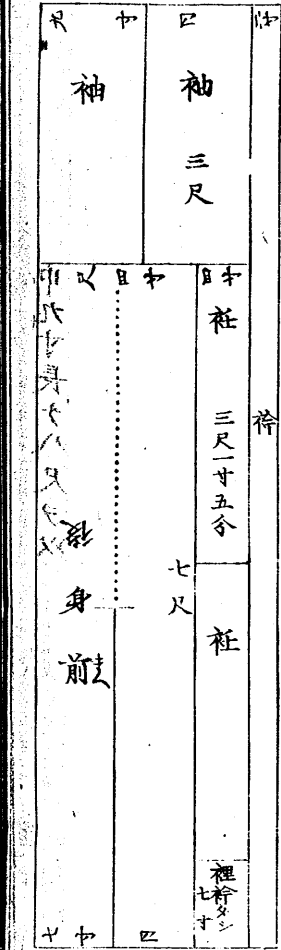


巾九寸長一丈五尺四寸ヲ以テ女羽織畧裁法

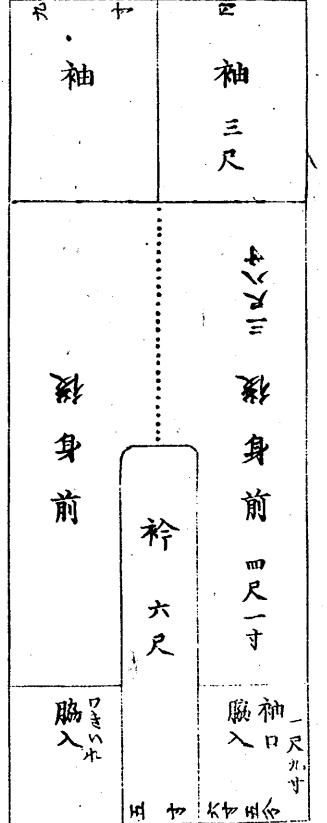


但半衿下三寸五分巾長一丈二尺一寸ノ織切ヲタス

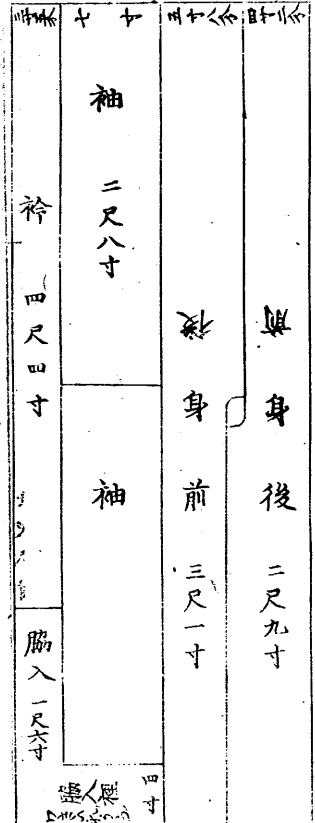
片面織船來モノ巾二尺長一丈ヲ以テ四ツ身裁法



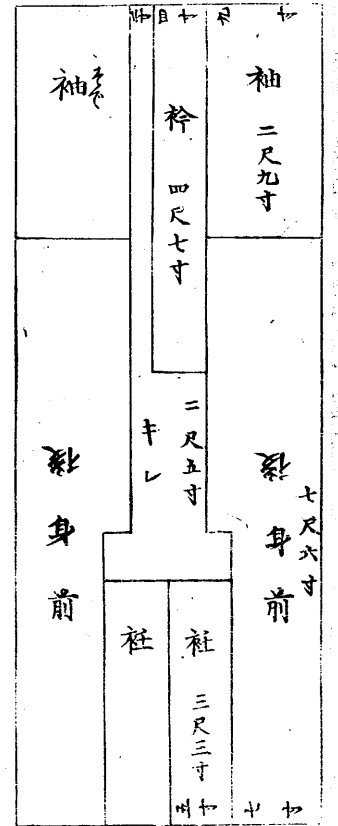
唐棧巾一尺八寸長一丈二尺八寸ヲ以テ折返シ羽織畧裁法



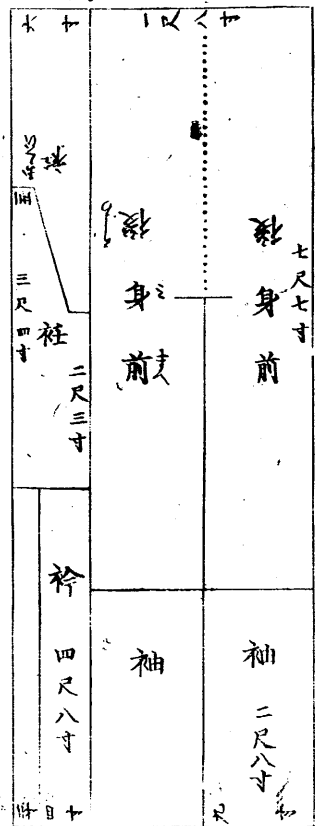
兩面織船來モノ巾二尺五分長一丈六尺ヲ以テ三ツ身折返シ羽織裁法



金中類巾  
二尺四寸  
長ク一丈  
五寸ヲ以  
テ本身裁  
法



金中類巾  
二尺四寸  
長ク一丈  
五寸ヲ以  
テ本身裁  
法



明治十二年七月十五日版權免許同年十月出版

編輯兼出版人

大阪府東區備後町四丁目五番地寄留岡山縣

岡野金門

定價九錢

專

賣

- 大阪府東區備後町四丁目
- 同東區北久太郎町四丁目
- 同南區心齋橋金堂寺町
- 同東區唐物町四丁目
- 同東區南本町四丁目
- 同東區博勞町四丁目
- 同東區南金堂寺町四丁目
- 同東區博勞町四丁目
- 同東區南金堂寺町四丁目
- 同東區唐物町四丁目
- 同東區本町四丁目

- 吉岡平助
- 柳原喜兵衛
- 大野木市兵衛
- 森本太助
- 中島徳兵衛
- 岡田茂兵衛
- 前川善兵衛
- 前川勘助
- 前川源七郎
- 浅井吉兵衛
- 書籍會社

大阪府  
手藝校  
教則圖解

裁縫讀本

岡野金門編輯

卷之二

180  
8  
291

二五〇

大日本教育會館	
室	第
一五〇號	三六函
四冊	四架

十六六